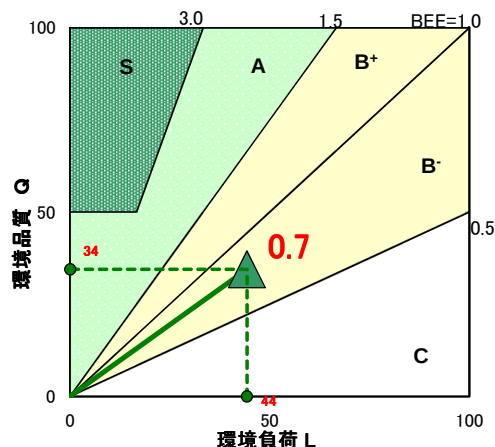


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	(仮称)櫻井精技部品倉庫増築工	階数	地上2F
建設地	熊本県八代市岡町中宇下142番地	構造	S造
用途地域	区域区分非設定、防火地域指定なし	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	3,600時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年7月 予定	評価の実施日	2012年3月19日
敷地面積	7,244 m ²	作成者	坂本高浩
建築面積	1,176 m ²	確認日	2012年3月21日
延床面積	2,068 m ²	確認者	坂本高浩

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.7

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

98%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

73

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

77.1

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

60.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

70.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

79.5

■ 熊本県重点評価基準

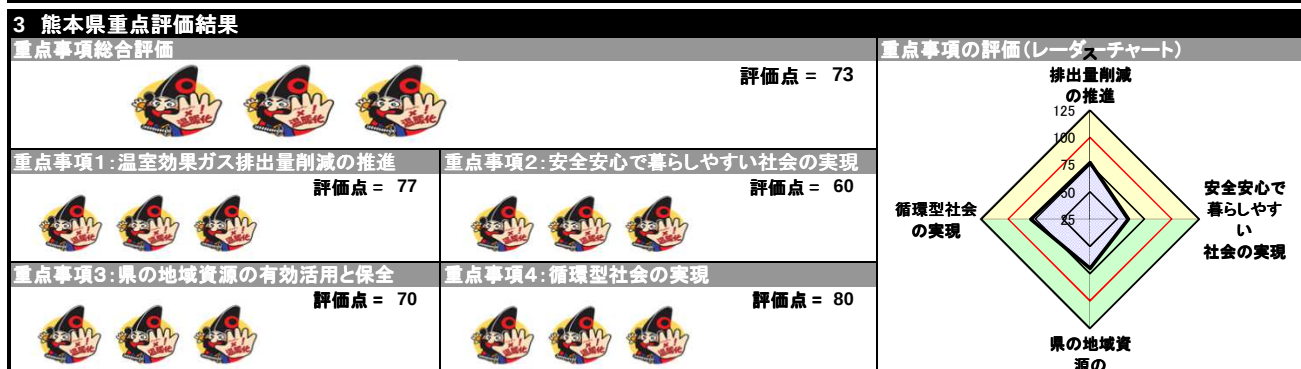
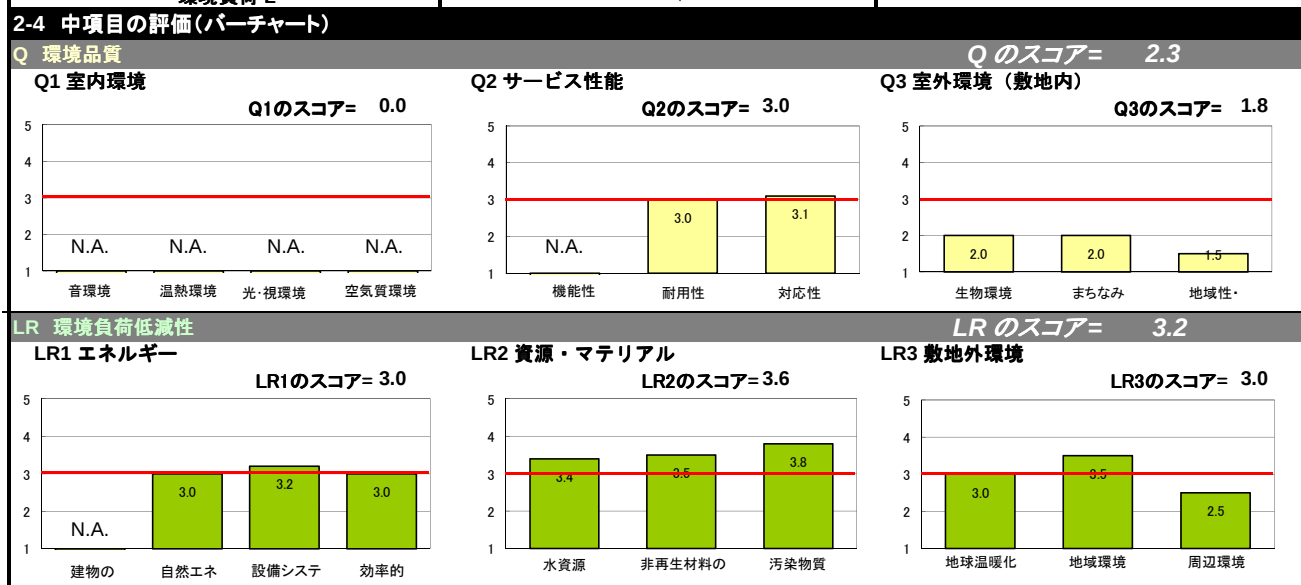
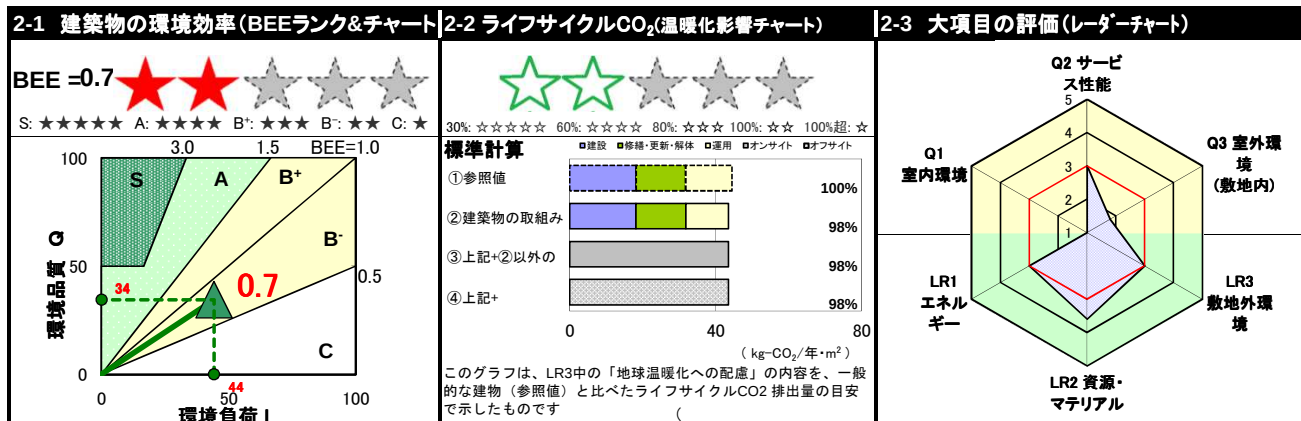
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)櫻井精技部品倉庫増築工	階数	地上2F	
建設地	熊本県八代市岡町中宇下142番地	構造	S造	
用途地域	区域区分非設定、防火地域指定なし	平均居住人員	0 人	
気候区分	地域区分V	年間使用時間	3,600 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年7月 予定	評価の実施日	2012年3月19日	
敷地面積	7,244 m ²	作成者	坂本高浩	
建築面積	1,176 m ²	確認日	2012年3月21日	
延床面積	2,068 m ²	確認者	坂本高浩	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

水田跡地を造成した計画地、精密機械工場の部品倉庫を造る計画である。開発当初から敷地周囲の緑化と敷地内からの排水には特に注意を払っており、今回の増築工事においても緑化および排水計画に変更はしていない。

外観については、既存工場群と馴染むような形状とし、仕上材料も同様なものを選定した。

Q1 室内環境

大空間の倉庫スペースには精密機械の部品が保管され、その部品が湿気や太陽光を嫌う。そのため室内には空調機・除湿機を設置し、窓も設けられていない。空調機は保管環境の状況に合わせて単独でオンオフができることとし、除湿機は自動制御としているため、必要な部分の室内環境を保つことができる。また、U値の優れた外装材を選定し、空調機によるエネルギー消費量を軽減している。

建築材料としてはF☆☆☆☆材を全面的に採用している。

Q2 サービス性能

この倉庫に保管される部品の性格上、窓を設けられないため、天井高さを1階3.0m、2階2.5mとし、必要最低限の空間とした。倉庫内は埃を嫌うため、溜まらず掃除もしやすいような平面、断面計画を行った。

内壁は全て軽鉄間仕切壁、天井も軽鉄下地のため将来の設備更新時期でも、容易に改修工事ができるものとした。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地周囲全域に樹木を配置し、塀やフェンスを設けないことで、閉鎖された工場というイメージをなくすことを心掛けた。

形、色、植栽に既存敷地からの繋がりをつくることで、周囲への影響が少なくなることを目指した。

LR1 エネルギー

部品倉庫であり、そこでの継続的な作業がないため、平均照度200lxを設定した。またエネルギー効果の高い高出力型の照明器具を選定した。

LR2 資源・マテリアル

節水型の設備器具の選定。また、リサイクル材については、断熱材について採用を計画している。また、全ての壁を軽鉄壁にすることにより、再利用できる材料が多くなる。

使用する材料は、汚染物質含有のないものを使用する。

LR3 敷地外環境

敷地の開発当初からの雨水の浸透側溝による敷地内浸透、およびオリフィスによる雨水の外部への流量が制限については変更していない。外部照明については、照明環境Ⅱであることもあり、必要最低限の照明とした。

その他

特になし。

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)櫻井精技部品倉庫増築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.3
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 騒音		-	-	-	-	
1.1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		-	-	3.0	-	
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温		-	-	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		-	-	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-	
2.3 空調方式		-	-	3.0	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		-	-	3.0	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	3.0	-	
3.4 照明制御		-	-	3.0	-	
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-	-	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量		-	-	3.0	-	
2 自然換気性能		-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.0
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	1.00	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.52	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数15年以上	4.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途3種にC以上を使用	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新				-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	PHS電話の活用と精密機械の浸水防止	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.1	0.48	-	3.1
3.1 空間のゆとり			2.2	0.31	-	-
1	階高のゆとり		1.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.189	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり		床荷重=4000N/m ²	4.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	ビートを設けており躯体をいためず配管の更新が出来る	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		CEC/Lポイント値121	3.2	0.43	-	3.2
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=7.6%	3.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.29	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水器具の使用	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	断熱材、階段滑り止めの使用	4.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材の構成、躯体・仕上材への配管・配線の打	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング材、壁塗料、塗床材、床仕上ワックスに含有無	5.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤使用なし	4.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	3.5
2.1	大気汚染防止	燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	隣接所有地に駐車場、駐輪場を確保、大型車荷捌場の確保	4.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-
1	騒音		-	-	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			1.6	0.67	-	-
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告物照明なし、「良い照明環境を得る・・・チェックリスト」過半満	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-